

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730503

研究課題名(和文) アメリカ合衆国における多人種コミュニティ論の歴史社会学的構想

研究課題名(英文) A Historical Sociology of Multiracial Community in the United States

研究代表者

南川 文里 (Minamikawa, Fuminori)

立命館大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：60398427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円、(間接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はアメリカ合衆国における「多人種コミュニティ」の歴史的形成過程を、1940年代後半から50年代に至るロスアンジェルスの日系人、黒人、メキシコ系などのあいだの集団間関係の構築に注目して分析したものである。その結果、既存の二集団の関係にもとづく「同化」理論の枠組は不十分であり、(1)アメリカ社会の人種エスニック関係の言説編成のなかでの位置づけ、(2)地域レベルで複数の人種エスニック集団が市民的な連携関係を構築する過程、(3)当該エスニック集団と出身国との結びつきの重層として、「多人種コミュニティ」が形成されることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study seeks to analyze historical formation of a "multiracial community" in the United States, focusing on multiple group relations involving Japanese, Mexicans, and African Americans in Los Angeles in the late 1940s and 1950s. As a result, it clarifies that a concept of assimilation based on two-group relations between a racial minority and white cannot grasp how more than two ethno-racial groups had lived together in American city. Thus, this study proposes new concept of "multiracial community" which focuses on (1) discursive formation of ethno-racial relations in the US society, (2) interracial civic engagements in which multiple ethnoracial groups share civic political culture and participate through various associations in a local context, and (3) transnational connections between an ethnic group and its homeland.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：コミュニティ 人種 エスニシティ アメリカ 歴史社会学 多人種コミュニティ 多文化主義 マイノリティ

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究開始時の背景として、「多文化共生」や多文化社会をめぐる議論のなかで、「エスニック・コミュニティ」という概念が詳細な検討を経ないまま使用されてきたことが挙げられる。「エスニック・コミュニティ」は、しばしば特定のエスニック集団が独占的に占有する空間として認知され、その均質性を前提として社会におけるエスニック集団がイメージされてきた。しかし、実際には「エスニック・コミュニティ」という場所には、異なった文化的背景を持つ人種エスニック集団のメンバーが混在しており、そのコミュニティが基盤としているのは、このような多様な人々による日常的な相互作用であった。既存の均質性を前提としたコミュニティ概念では、このような多様性のダイナミズムをかかえた地域社会の姿を十分に反映させることは困難だ。それどころか、あたかもマジョリティによる均質な社会を守ることが、社会の「安定」や「秩序」を確保することであるような、多文化社会に対する偏った見方が支配的になりつつあるといっても過言ではない。21世紀にはいつてから、多文化主義の「後退」や「敗北」が喧伝されることもめずらしくなくなっている。

しかし、このような議論は、多文化社会を支える社会的な制度や実践のあり方を、その歴史的背景にさかのぼって十分な検証を加えているといえるであろうか。コミュニティという語が喚起する均質性の神話を、あたかも社会的事実であるかのように扱ってはいないだろうか。

実際には、「エスニック・コミュニティ」と呼ばれる場所は、日常的に複数の人種エスニック集団が生活空間として共有してきた場所である。たとえば、ロスアンジェルスのリトルトーキョー地区は、アメリカ日系人の街として語られるが、この地区であっても日系人が人口統計学上の最多数派となったことは歴史上一度もない。この地区には、常にヨーロッパ出身の移民労働者、中国系移民、黒人、メキシコ系移民など、多様な人々が住み、働き、生活してきた。エスニック・コミュニティという概念は、このような場所の歴史的経験を十分にふまえているとは言えない。むしろ、均質性の神話は、そのような歴史的経験を単色に上塗りしてしまうものであった。多文化主義の「後退」が強調される現在だからこそ、このような多人種、多民族の場所の経験からコミュニティ、エスニシティ、人種といった概念を問いなおすことが求められているといえるだろう。

## 2. 研究の目的

本研究は、以上のような背景をふまえて、アメリカ合衆国の都市において、多様な人種エスニックな背景を持つ人々が共存する場所

の経験を、「多人種コミュニティ (multiracial community)」として概念化し、既存の均質なコミュニティを前提とした多文化社会像を描きなおすことを目的とする。そのため、コミュニティという概念を、特定集団のメンバーシップによってではなく、多人種の地域社会における社会関係構築と複合的なアイデンティティ形成によって特徴づけ、「多人種コミュニティ」として再定義する。

以上の目的にそくして、本研究では、多人種コミュニティを、ある集団が政治的・経済的・文化的に支配していると一般に考えられる「エスニック・タウン型」と、特定の優位な集団を想定しない「人種統合」側コミュニティへと類型化し、それぞれの多人種コミュニティを可能にさせる社会的パターンを抽出する。具体的には、ロスアンジェルスの日系人コミュニティのうち、リトルトーキョー地区をエスニック・タウン型、クレンショー地区を人種統合型の一例として挙げ、それぞれのコミュニティ形成を可能にした条件を、歴史社会学的な観点から明らかにする。

## 3. 研究の方法

具体的な研究の方法としては、ロスアンジェルスのリトルトーキョーおよびクレンショー地区の歴史的経験を分析し、1950年代から1960年代にかけての公民権と文化的多様性への意識が高まる時期における多人種コミュニティの展開を明らかにする。具体的には、多人種コミュニティ論の理論枠組を構築する文献研究、文書資料収集を中心とした国内外での調査、そして収集資料の実証的分析という形で進められる。文書資料としては、カリフォルニア大学ロスアンジェルス校研究図書館における日系アメリカ人研究プロジェクト (JARP) コレクション、羅府新報、加州毎日などの日本語 (日系) 新聞、カリフォルニア・イーグル、ロスアンジェルス・センチネルなどの黒人新聞、日系アメリカ市民協会 (JACL) などの日系人団体、ロスアンジェルス市や郡に置かれた公民権問題に関わる委員会の記録、戦後期のロスアンジェルスにおけるマイノリティ政治家や活動家の個人文書などを収集した。これらのデータを電子データとして整理し、それぞれの歴史的文脈にそくして詳細な資料研究を行った。

これらの歴史的分析においては、(1) 多人種状況を取り巻く言説、(2) 多人種地区の日常生活を支える社会関係、(3) 人種エスニック意識とコミュニティ意識が交錯する複合的なアイデンティティ形成という3つのテーマに焦点を合わせた。そして、二つのコミュニティ類型を比較検証することによって、多人種コミュニティの顕現パターンを類型化するとともに、そこに共通する多人種コミュニティ論の基本構想を歴史社会学の観点から提示しようと試みた。

#### 4. 研究成果

平成 23 年度から 25 年度にかけての研究期間において、調査研究はほぼ計画どおりに進められた。ただし、以下の 2 点については、既存の研究計画では想定されていなかった点であったが、多人種コミュニティの歴史的展開を考慮するうえでは重要であると考え、当初計画を修正するかたちで研究を展開した。

・リトルトーキョーとクレンショーという 2 つの地区の比較研究については、実際にはこれらの 2 つの地区を横断して活動している団体や個人が多く、厳密にそれぞれの地区における現象として比較研究することが難しかった。そこで、議論の焦点を、多人種コミュニティの類型化というよりは、エスニック・タウンの政治的関心と、もう少し広いマイノリティ混住地区の関心の相互作用へと移行させることとなった。

・第二次世界大戦後の在米日系人社会に焦点を当てたとき、1950 年代には、他の人種エスニック集団との関係性に加えて、出身国である日本との結びつきが、コミュニティ形成の大きな焦点となっていることが明らかになった。よって、多人種コミュニティ形成が、太平洋を越えるトランスナショナルな紐帯とどのような関係にあったのかが、新しい課題として取り入れられた。

以上の 2 点の修正を加え、研究成果は以下のように整理できる。

(1) 第二次世界大戦後から 1960 年代にかけてのアメリカ合衆国の人種関係の変化と在米日系人の言説的配置を明らかにした。具体的には、戦時強制収容経験、戦後のロスアンジェルスへの再定住、さらに公民権期・ポスト公民権期と言われる時期における「日系アメリカ人」言説のあいだの連続性と断絶が焦点となった。その結果、「日系アメリカ人」が、アメリカ合衆国の人種編成において「モデル・マイノリティ」や「移民パラダイム」を強化する事例として扱われていたこと(論文 など)、その神話の構成に、日系人の強制収容経験にもとづくコミュニティ観が深く影響したこと(論文 など)、さらに、このような神話の構成に日系人の指導者層も強くコミットしていたこと(図書 など)が明らかになった。このような言説的位置が、日系人と黒人や他のマイノリティとの連帯意識の醸成を難しくした点が明らかになった。

(2) 以上の言説編成に対し、地域社会の社会関係レベルにおいては、日系人と他のマイノリティのあいだには連携関係が存在していた。とくに、リトルトーキョー地区におけるリーダーたちは、イースト L A のメキシコ系政治家エドワード・ロイバルを支援するこ

とによって、LA 都市政治におけるマイノリティとしての政治参加のチャンネルを確保した。一方で、クレンショー地区のような人種統合型多人種コミュニティにおいては、集団を越えて広範な人種主義に対する異議申し立てや抗議活動が実践された。ただし、このような集団間の連携の媒体となったのは、JACL のような二世エリートらが参加した市や郡が設置する人種関係改善のための委員会などの活動や、在郷軍人会を中心とする団体であり、その連携は、アメリカのナショナルな忠誠心、反共産主義、市民的理想の絶対視などの冷戦時代の制約のもとで進められた。このように、多人種コミュニティの形成は、地区を基盤とした日常的な関係性の構築と、エスニック組織間を架橋する市・郡レベルのネットワークの重層構造に支えられていた。このようなコミュニティの重層構造は、在米日系人のホスト社会への編入経路を重層化させた。すなわち、白人主流社会との関係性のみに着目した既存の同化論・適応論に対し、複数の人種エスニック集団とシヴィックな政治文化(および反共産主義などの冷戦期イデオロギー状況)の共有を土台にした関係構築こそが、日系人の「エスニック・コミュニティ」形成と、アメリカ社会への再統合過程の鍵となったことが示された(図書収録論文 など)。

(3) 在米日系人社会は、以上のような多人種コミュニティ形成と同時進行で、出身国である日本との関係性を再構築した 1952 年移民法によって、日系人に対する移民停止が解除されると、移民割当以外のルートでの新規移民の獲得に、日系人社会が深く関与した。このような関与の背景には、在米日系人がエスニック集団として、多人種コミュニティを共有する黒人やメキシコ系住民の人口増加圧力に対して、一定の影響力を確保したいという狙いがあった。一方で多様なメンバーを抱えることとなった日系人社会内部では、「日系人とはだれか」「エスニック組織の役割とは」をめぐる問いなおしが、コミュニティ全体を巻き込む議論へと発展した(学会発表 など)。このように、多人種コミュニティの形成は、一方では「アメリカ市民」としての政治文化を共有する地域住民アイデンティティの構成を導いたが、他方では、日系人アイデンティティの再定義にも結びついた。

以上のような具体的な事例研究の蓄積を踏まえ、本研究では、多人種コミュニティを、出身国との結びつき、移住先地域での日常生活、移住先地域における人種関係が具現化される場所として、人種エスニシティ研究の中心概念の一つとして提案するにいたった。既存のエスニック・コミュニティ概念が、エスニック集団を基本単位としてアメリカ都市空間を把握する志向を持っていたのに対し、

多人種コミュニティ概念は、エスニック集団のメンバーシップを自明とせず、それを移住先や出身国との結びつきを強化する過程の産物として考える。「リトルトーキョー」という「エスニック・コミュニティ」への意識もまた、このような複合的な人種エスニック化過程のなかに条件付けられている。よって多人種コミュニティという概念を通して考えることによって、具体的な場所を舞台に、いかに特定の人種エスニックな「コミュニティ」が、アメリカのシヴィックな政治文化、複合的な人種関係、出身国との関係のなかで構築されるのかが明らかになった。研究期間終了後は、多人種コミュニティの存在をふまえて、地域の人種関係がどのように「多文化主義」的な政策展開に関与したのかを、平成26年度から平成29年までの新規科研費研究課題「アメリカ型多文化主義の成立と展開をめぐる歴史社会学的研究」(基盤研究C、南川文里研究代表者)において、追求する。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

南川文里、鉄条網のなかの「コミュニティ」：アメリカ合衆国の戦時強制収容は日系人社会をどう変えたのか、立命館言語文化研究(立命館大学国際言語文化研究所), Vol. 25, No.1, 2013, pp.91-103. 査読無.

南川文里、「アメリカン・コミュニティ」としての収容所：在米日系人強制収容と人種主義、立命館国際研究(立命館大学国際関係学会), Vol.25, No.2, 2012, pp.1-15. 査読無.

Fuminori Minamikawa, The Japanese American 'Success Story' and the Intersection of Ethnicity, Race, and Class in the Post-Civil Rights Era, The Japanese Journal of American Studies (日本アメリカ学会), Vol. 22, 2011, pp.193-312. 査読無.

〔学会発表〕(計 4 件)

Fuminori Minamikawa, "How Is Multiculturalism Americanized and Japanized?" International Sociological Association XVIII World Congress of Sociology. 2014年7月15日, パシフィコ横浜.

南川文里「トランスパシフィック・リトルトーキョー：人の移動の1952年体制と在米日系人社会」日本アメリカ学会第48回年次大会, 2014年6月7日, 沖縄コンベンションセンター.

Fuminori Minamikawa, "A Trans-Pacific Construction of 'Japanese Woman': Pre-War Japanese Immigrant Community and A Journey of Waka Yamada," 2013

Organization of American Historian Annual Meeting, 2013年4月12日, Hilton San Francisco Union Square.

Fuminori Minamikawa, "Vernacular Representation of Race and the Making of an Ethnoracial Community of Japanese in Los Angeles." International Workshop: Japanese and Asian Americans: Racializations and Their Resistances, 2011年10月13日, University of California Los Angeles.

〔図書〕(計 4 件)

野上元・小林多寿子編(共著) 歴史と向き合う社会学：資料・表象・経験、ミネルヴァ書房、2014 予定、総ページ未定。(担当箇所 南川文里、エスニックな場所、多人種の痕跡：リトルトーキョー/ブロンズヴィルの描きかた、ページ未定)

中筋直哉・五十嵐泰正編(共著) よくわかる都市社会学、ミネルヴァ書房、2013. 総ページ数 220 頁(担当箇所 南川文里、都市のエスニック・コミュニティと文化、エスニック・メディア、シカゴ学派のモノグラフと都市エスノグラフィ、pp.42-43、132-133、158-159 頁)

マイグレーション研究会編(共著) エスニシティを問いなおす：理論と変容、関西学院大学出版会、2012. 総ページ数 267 頁(担当箇所 南川文里、第 部・序、エスニシティは変容する：アメリカ合衆国におけるエスニシティ論の射程、17-46 頁)

日本移民学会編(共著) 移民研究と多文化共生、御茶の水書房、2011. 総ページ数 341 頁(担当箇所 南川文里、世代の言葉でエスニシティを語る：日本人移民はいかに「日系アメリカ人」になったのか、104-121 頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南川 文里 (MINAMIKAWA, Fuminori)

立命館大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：60398427

(2) 研究分担者 なし

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし

( )

研究者番号：